

平成22年度武蔵野市立第一中学校 学校評価報告書

校長 大町 洋

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導・ 道徳教育	基礎・基本の定着 個に応じた学習指導	前年度に引き続き、授業における1単位時間の目標と評価を明確にするよう実践した。数・英の少人数授業、学年選択授業、学習支援教室の開設時間増により基礎・基本が定着してきた。学習成果が低迷している生徒に対する指導として、T Tの他、T A導入による個別指導も実施した。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を含め授業の重要性を全教員が共通理解し、一中の授業形態を継続する。 英・数は、少人数授業でのメリットを生かし、より細かなプログラムによる習熟度別授業を実施する。英は、学年選択授業、T T活用によりきめ細かな指導を徹底する。 教科担任主導による学習支援教室により、課題のある生徒への対応を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果が低迷している生徒や支援を必要とする生徒への支援は、大切である。 地域での生徒は、以前より落ち着き、道徳教育の成果の表れだと思う。 学校が、道徳教育に一生懸命なのがわかる。価値項目プレートの活用は効果的である。道徳教育は、保護者・地域も考える必要があり、継続することも大切である。 研究発表会の内容がとてもよかった。生徒の道徳的価値は、どこまで理解しているかをはかることは難しい。
	道徳教育の充実・推進	市の研究奨励校として、道徳的实践力を高める研究を道徳の時間を核として、全教育活動で実践した。これにより、生徒の道徳的価値項目に対する意識が高まった。今後も、この実践を継続する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を高める教材の活用や生徒の実態に合った道徳教育を工夫・推進する。 全教育活動において、道徳的視点に立った教育活動を継続する。 	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○1単位時間の目標を明確にし、基礎・基本の定着を図る。また、学習成果が低迷している生徒への学習アドバイスをより丁寧に行い、学習支援教室の有効な活用を図る。</p> <p>○全教育活動を通じて、道徳的実践力を高める指導を継続する。また、学校・家庭・地域が密接に連携し合い、道徳教育をより一層効果的なものにする。</p>				
生活指導・ 進路指導・ 特別活動	基本的な生活習慣の確立	継続してあいさつ指導に重点を置いた。また、授業規律など校内生活に関して積極的な指導に取り組んだ。身だしなみなど改善が図られた。アンケート結果は、肯定的な評価が生徒・保護者とも80%を越えた。今後は、「元氣よくあいさつができる」を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面で、生徒が自然にあいさつできるまで指導を継続する。 授業規律に全教員が取り組み、基本的な道徳性をより向上させる。 指導基準を明確にし、保護者の協力を得ながら指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一中フェスタでは、実行委員が意欲的でとてもよかった。 あいさつは、よく返してくれる。 学校と生徒・保護者との進路指導との意識の違いがあるのでは。生徒・保護者は、将来の進路まで考えられない部分もあり、進学に対する指導も必要だと思う。
	進路指導の充実	各学年、発達段階に応じた進路指導を実施した。2年生では、職場体験に取り組み、その実績に保護者・生徒から80%を超える肯定的な評価を得た。より一層体験活動を充実させる必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導計画を立て、実践する。1・2年生において、進学に関する内容も丁寧に指導する。 各学年、体験活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の進路に関する質問内容は、もう少し内容を理解しやすいように改善する必要があるかもしれない。
	生徒の自治能力の向上	特別活動において、道徳的価値項目を明確にし、生徒自らが進んで取り組めるように計画・実践した。生徒のアンケート結果では、行事や自主性などの対する肯定的な評価が80%を越えた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や委員会による生徒の自主的活動を活性化、自治能力を高める。 共通理解の下、特別活動の目標達成に向け計画的に実践する。 	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○基本的な生活習慣（授業規律も含む）に関して、指導基準を明確にし、家庭と連携して組織的な指導体制を継続する。また、生徒の自治の力を高める指導を推進する。</p> <p>○3年間を見通した進路指導計画を見直し、進学指導にも対応した指導内容を充実する。</p>					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	開かれた学校づくりの推進	学校公開を年3回土曜日に開催し、保護者、地域の方々の学校に対する理解を深めることができた。また、学年行事等も公開した。しかし、平日の参加数が少ないことは、課題である。	A	・今後は、今年度より多く学校公開日を設定するとともに、公開の内容を精選する。 ・次年度も、土曜の公開授業を3回開催し、学区小学校、地域への紹介を活発に行う。	・小学校の行事などには、中学生も手伝いに来ている。 ・地域やコミセンなどの行事に参加してもらうことが課題である。 ・道徳教育の実践は、地域でも評価している。地域での評価を、生徒に伝えていくとよい。 ・地域との交流が、ハートカードの取組のように形あるもの（書面など）で実践できるとよい。 ・青少協は、地域との連携を実践するために協力する。 ・コミセンは、学校に協力できる人材を紹介することが可能である。
	小中連携の推進	テーマを決め、教員対象の小中連絡協議会を2回開催し、お互いの理解を深めた。また小学生対象の体験授業、体験部活動の実施、保護者対象の授業公開を5日間実施した。児童・保護者の中学への興味・関心を高めることができた。	A	・小中連絡協議会を定期的を開催することを継続すると共に、情報の共有化をより一層推進する。また、指導の一貫性を高め実践する。 ・小学生対象の体験授業、体験部活動をより充実する。	
	地域とともに発展する学校	一中フェスタを、生徒実行委員と地域の方々と密接に連携して行うことができた。また、地域の方々ととの交流が充実しPTAとの連携を深めることもできた。アンケート等から、生徒の意識が高まったことがわかった。	A	・全生徒が、自覚を持って一中フェスタに取り組めるように工夫・改善を推進する。 ・生徒が、地域の方々と共に計画・立案していく機会を増やす。	
	地域の教育力の活用	今年度は、書写、進路、総合的な学習の時間に地域の方や社会福祉協議会など諸機関の方々を多数活用した。今後も、活用機会を拡大する。	B	・保護者・地域に人材情報を求め、活用拡大を継続する。	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○学年行事を含め、学校公開の機会を増やし、保護者・地域の方々に教育方針をより一層理解してもらえるように努める。</p> <p>○学校が、地域と連携するための仕組みを行い、地域の諸機関との関係を深めながら積極的に取り組む。</p>				
学校運営	学校とPTAとの組織的な連携	毎月1回、PTA運営委員会を開催し十分に情報交換及び意見交換ができ、共通理解を深めることができた。また、行事などにおけるPTAの協力体制も確立できた。	A	・運営委員会の内容を充実させ、連携をより一層深める。 ・教職員とPTA各部会との連携をより一層推進する。	・学校運営は、よくなっている。 ・生徒が、校長と教員との協力体制ができているか、いないかなど分からないのは当然だと思う。アンケート結果を、あまり気にすることはないと思う。 ・開かれた学校づくり協議会の討議内容が、レベルの高いものになってきた。学校にとって、よい方向になってきている。
	学校情報の充実	学校ホームページを毎日更新し、常に最新の情報を提供した。そのため、アクセス数も飛躍的に増加した。	A	・今後も、ホームページを情報発信の中心に位置付け、継続する。 ・各種たより（学校、学年、分掌等）の内容を充実させる。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○PTAや開かれた学校づくり協議会委員が、学校訪問の機会を増やせるように開催日などの工夫をする。今後も、学校評価を実施することで、学校改善を推進する。</p> <p>○ホームページや学校・学年便りなどを有効活用し、充実した学校情報の提供と学校・家庭・地域が連携して行う生徒の育成を、より一層推進する。</p>					